短期予報解説資料　２０２６年３月１１日１５時４０分発表

気象庁

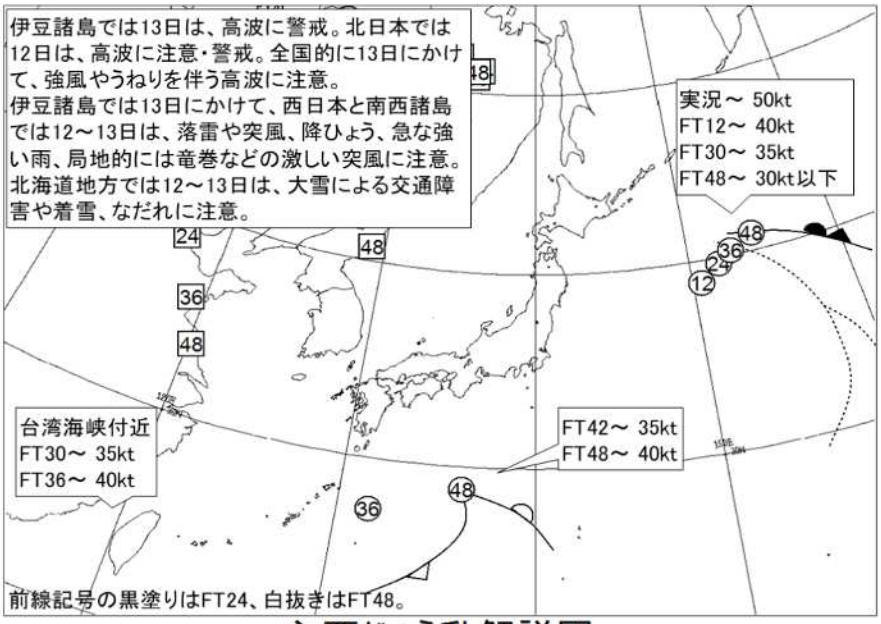
１．実況上の着目点

① 500hPa 5400m以下の切離低気圧に対応する低気圧が、前線を伴って日本の東をゆっくり北上。

② 500hPa 5340m付近で−39℃以下の寒気を伴うトラフが沿海州付近を南東進。

③ 500hPa 5520m付近で−30℃以下の寒気を伴うトラフが、黄海を南東進。また、500hPa 5640m付近で−27℃以下の寒気を伴うトラフが、華北を南東進。

④ 南西諸島近海では北風と北東風のシアーラインがあり、強い雨を解析。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 11日は、1項①の地上低気圧は、切離低気圧の直下に入って動きが遅くなる。低気圧の影響で強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなりしける所がある。北日本では13日にかけて、東日本では12日は、強風や風雪、高波に注意。北海道地方では12日は高波に注意・警戒。また、北海道地方では、低気圧の北側を回る湿った北よりの風の流入が続き、降雪が続いて大雪となる所がある。12～13日は、大雪による交通障害や着雪、なだれに注意。

② 1項②のトラフは、12～13日は寒冷渦となって、2項①の切離低気圧の周りを回るように日本海を南下する。また、1項③の寒気を伴う2つのトラフは、12日夜～13日にかけて、南西諸島や西日本を通って日本の南に進み、日本海を南下する寒冷渦を取り込みながら、13日夜には小笠原諸島の西に進む。地上では、12日夜までに南西諸島付近で低気圧が発生し、13日は上層トラフに対応して前線を伴い発達しながら東北東進する。低気圧や前線の影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなり大しけとなる所がある。伊豆諸島では13日は高波に警戒。南西諸島と西～東日本では12～13日は、強風や高波に注意。

③ 2項②の上空寒気と低気圧や前線及び気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。伊豆諸島では13日にかけて、西日本と南西諸島では12～13日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、寒気の影響により、西～東日本では山地や山沿いを中心に雪の降る所がある。降雪の強まりに留意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：北海道20cm。

③ 波浪(明日まで)：北海道5、東北・沖縄4、関東・伊豆諸島・九州北部3m。

④ 高潮(明日まで)：北海道地方では注意報基準を超える所がある。

５．全般気象情報発表の有無　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。